

「遙拝八の字広場」の利活用について

～ 現状の課題と今後への提案 ～

熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科(上久保研究室)
増田晃大 橋本光世 原武杏吏 渡邊春奈 宮崎芽衣 土田夏海

地域課題の選択 ①「令和2年7月豪雨の被災地域における地域の持続に必要な取組みについて」

1. はじめに

平成24年9月に熊本高等専門学校(以下、本校)と国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所(以下、八代河川国道事務所)が連携・協力に関する協定を締結し、特に「公助」の立場における実践的な問題解決方法をハードソフトの両面で協働提案し実行している。例えば、熊本県南部を流れる一級河川の球磨川を対象として、過去の被災状況や地区の抱える特有の問題を確認する一方で、模型実験によって最適な河川改修についてのハード対策手法を提案している。

また、防災減災だけでなく、「八の字堰」に関する共同研究や球磨川・新萩原橋周辺地区における「かわまちづくり」計画の検討も行ってきており、図1に示す「八の字堰」と「遙拝八の字広場」が誕生している。令和2年7月豪雨の影響によりオープン直前だった遙拝八の字広場も被害を受けたが、令和4年の8月に復旧し改めてオープンすることができた。

本論では、現在の遙拝八の字広場の調査を行い、これからの地域の持続に必要な取組みを提案する。

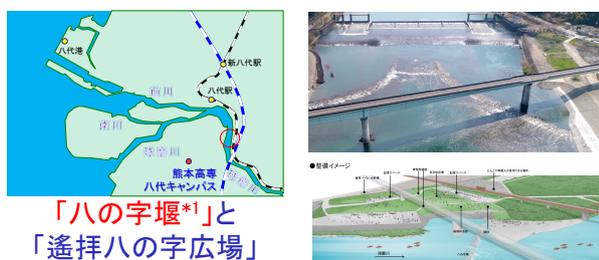


図1) 八の字堰と遙拝八の字広場

2. 現状分析/調査内容

令和4年8月20日に遙拝八の字広場完成記念式典が開かれ、球磨川豪雨災害後、無事に広場がオープンすることとなった。¹⁾この広場の特徴として、八代市のホームページには「本広場はキャンプやバーベキューなどのアウトドアレジャーを楽しめる施設として、イベントなど、貸出がない時は予約不要で誰でも利用できます。火気の使用も可能で、砂利広場では本市の公共施設では初めて直火の使用も可能です。また、事前に予約することで、手ぶらでバーベキュー道具やテントなどの借用の他、カヌー体験や川遊び体験などに参加できます。」とある。

オープンから1年余りが経過し、現状を把握するために、遙拝八の字広場に関するWEBの開設状況の確認、現地調査、八代市役所職員の方や現地周辺の方にヒアリング調査を行った。

(1)WEBの開設状況

八代観光ポータルサイト「きなっせやつしろ」には、広場の専用状況(予約状況)や、遙拝八の字広場を利用する際の注意点や利用方法が書かれたパンフレットが掲載されている。また、YouTubeで「遙拝八の字広場」と検索すると、広場を紹介している動画が多くアップロードされており、キャンプを楽しむ様子を伺うことができる。²⁾

(2)現地調査

現地はトイレや水場が管理されており、利用しやすい広場であった。また、広場内にゴミはほとんど見当たらず、綺麗に整備されていた。

利用者については、平日は駐車場に車が数台しか止まっておらず、散歩をしている人がいる程

度で、ほとんど人がいなかった。ただし、土日ともなると広場内には色とりどりのテントが張られ、キャンプを楽しむ利用者が多かった。一方、川遊びをしている人はほとんどいなかった。

広場上流側の川辺は、透明度が高く生物も観察でき、川底が砂であったため、子供でも川遊びができる環境であった。一方、下流側広場の川辺は、石が多く堆積し、石には苔が生えていたためすべりやすく、安全に遊べる状況ではなかった。また、漁場にもなっているため、それを知らせる立て看板もあり、川の中には入りづらい。

(3)ヒアリング調査

①行政(八代河川国道事務所、八代市役所)

現在、広場は八代市役所が管理し、八代河川国道事務所は、河川管理者として八の字堰、護岸等を管理している。広場の利用者は週末が多く、占有の際の申請は会社のイベント(バーベキュー大会等)が多い。問題点として、占有許可書の貼紙は市の職員が現地に来て貼らないといけないこと、土日祝の対応は、管理する市の職員も休日であり、対応は難しいことを挙げられた。

②近隣の店舗の方

カヤック等のレンタルを実施している近隣の店舗(BARONG'S YO-HI ベース)でヒアリング調査を実施したところ、「かわまちづくり」の計画だったはずが、利用者にはキャンプ場としてしか伝わっておらず、「かわあそび」を想定して店舗を出したが、カヤック等のレンタルは1年に3件のみしかなかったとのことであった。「無料キャンプ場」との情報が拡散されているため、週末を中心にキャンパーしか来ていない、とのことであった。要望としては、定期的に自身がボランティアで清掃しているものの、安心・安全の利活用のためには、広場には何らかの管理者が必要とのことであった。また、キッチンカーを出そうとも思ったが出店料が高いので、それを是正して欲しいとの話も伺えた。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

解決すべき課題として、(1)キャンプメインの広場となっており、カヤックや川遊びができることを知らない

人が多い(2)利用者は土日に多いが、市役所が土日の問い合わせ対応・管理は困難(3)出店料が高く、キッチンカー等の出店が促進されず、利益が地域に還元されないことが挙げられる。

それぞれの課題に対し、「かわまちづくり」の運営の元に以下の社会実験を実施することを提案する。

(1)カヤックや川遊びを促進

遙拝八の字広場をPRする看板やデジタルサイネージを広場に設置することでキャンプ以外の利用促進を行い、川の利活用をもっとアピールし、学校の防災教育、環境教育の場として提供する。

(2)管理者を新たに設置

指定管理者制度等を利用して現地の管理者を新たに設置し、維持管理の促進に繋げる。また、よくある質問に対しての回答をネットや看板に掲載し、Youtube等で現地の様子をリアルタイムでライブ配信する。これにより、安心安全に利用できる一方、市役所職員の負担を減らすことができる。利用者側も色々な手間が省け、情報を共有できる。

(3)広場での出店を促進

広場の利用料を安くする、もしくは専有面積を小分けにすることで、出店側の利益を生むことができる。出店ルールを明確にする必要はあるが、広場に

出店する店が増えることで新たな賑わいも創出され、商売としての発展を見込めれば税収も増える

4. まとめ・今後の展望など

「遙拝八の字広場」において、社会実験を通してかわまちづくりを促進することで、球磨川豪雨災害からの復旧・復興の象徴の一つとして、八の字堰、遙拝八の字広場を盛り上げていきたい。また、誇れる故郷として、これからも発展してほしい。

参考文献

八代市ホームページ

「遙拝八の字広場完成記念式典」¹⁾

<https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00318524/index.html>

八代観光ポータルサイト「きなっせ八代」²⁾

<https://www.kinasse-yatsushiro.jp/>